

## 講演標題

『白山山中での昔の暮らしと かつての白山信仰』

## 講師

日本山岳会(茨城支部)会員 長岡正利

日時：令和元年 9 月 14 日 (土) 午後 1 時 30 分～3 時半頃 (受付は 13 時 10 分から)

場所：JR 土浦駅西口前「土浦市役所」(URARA ビル) 5 階の「<sup>うらら</sup>県南生涯学習センター」内、小講座室 No. 2  
入場は無料です。どうぞ、お越し下さい。

**お問い合わせ** 日本山岳会茨城支部・事務局 高木康雄 へてに：Tel.029-872-5476)

当日の、会場へのご連絡は、Tel.029-826-1101 (県南生涯学習センターの電話番号)

主催：公益社団法人日本山岳会 茨城支部

**講演の内容** 今回の講演内容は、以前の「白山の登山と自然・その花々、火山と地質」の続きです。

前回と同様に、たくさんの方のイラストによって、標題についてご紹介いたします。

白山山中には、古くから「出作り」といわれる農業・生活のかたちがありました。無雪期に山中に移り住むものから、年間を通してのものまであり、山腹斜面での焼畑耕作が主でした。養蚕・薪炭業も盛んでしたが、全国におけると同様に昭和 30 年代には衰退しました。出作りはその後も行われていましたが、高度経済成長の頃には、辺鄙な山間部に住む人々はなくなり、その後僅かの間に、守る人たちのいなくなった家々は豪雪地のこともあって、いつとはなしに自然の中に埋もれ去りました。今の山間現地には、その往時を偲ぶものはありません。



白峰大道谷、五十谷の出作り地。左は農耕が行われていた頃。その後、耕作放棄されて茅原となり、やがて豪雪の年に家は倒潰。耕作地跡に植林された杉が育って、今は五葉松の梢(赤矢印)が杉の樹間に覗くのみ。

遙かに秀麗な姿が望まれる白山は、古くから山岳信仰の対象となっていたようで、越前國の修験者・泰澄が 717 (養老元) 年に登頂して開山したとされています。平安時代には、加賀・越前・美濃の 3 國に、山頂への禪定(登拝)道が設けられて、その起点の各馬場には、白山寺・平泉寺・長滝寺が建立されました。白山修験は、室町時代には大きな勢力となり、全国に白山信仰が広まりました。しかし、明治維新後の神仏分離・廃仏毀釈が、それまでの神仏習合を強制的に神社と寺に改組したことによって白山信仰は終焉を迎え、山頂や各地に置かれていた平安時代以降の仏像などの多くは破却または別に移され、現在は一部が各地の寺などに静かに安置されています。



平泉寺白山神社の拝殿両翼に広がる  
一向一揆で焼亡の三十三間拝殿礎石列



開山 1300 年祭で開扉の拝殿内部、  
中央の繪馬は室町期とされている



廃仏毀釈時の山頂からの下山仏  
(白山市白峰の林西寺：重文)



平安後期、藤原秀衡寄進の虚空蔵菩薩  
(郡上市石徹白の大師講：同)